

第2回「山形県家計消費動向調査」結果 (平成18年12月調査)

【調査結果の要旨】

- ◆ 消費指数(指数レンジ 200～ 200)は 63.9 となっており、前回調査時点(9月)よりも 0.6 ポイント低下するなど、消費マインドは依然として低迷している。特に、「暮らし向き指数」の悪化が目立っており、景気認識とのギャップが広がっている。
- ◆ 今後の見通しについては、消費指数が 0.9 ポイント改善するものの、「暮らし向き指数」は悪化予想となるなど、消費マインドの回復は足取りの重いものとなっている。
- ◆ 最近 1 ヶ月におけるの全世帯の平均収入額は 460,082 円であり、前回調査時点よりも 16,178 円減収となった。一方、平均支出額は 355,972 円であり、前回調査時点よりも 26,135 円増えた。なお、平均消費性向は 77.4%となっている。
- ◆ 具体的な商品やサービスに対する支出意欲は、依然として支出を控えている世帯が多かったが、金融商品や娯楽・レジャー、習い事などについては、今後は支出を意欲的に行いたいという世帯も増える傾向にある。

平成 18 年 12 月

株式会社荘銀総合研究所

目 次

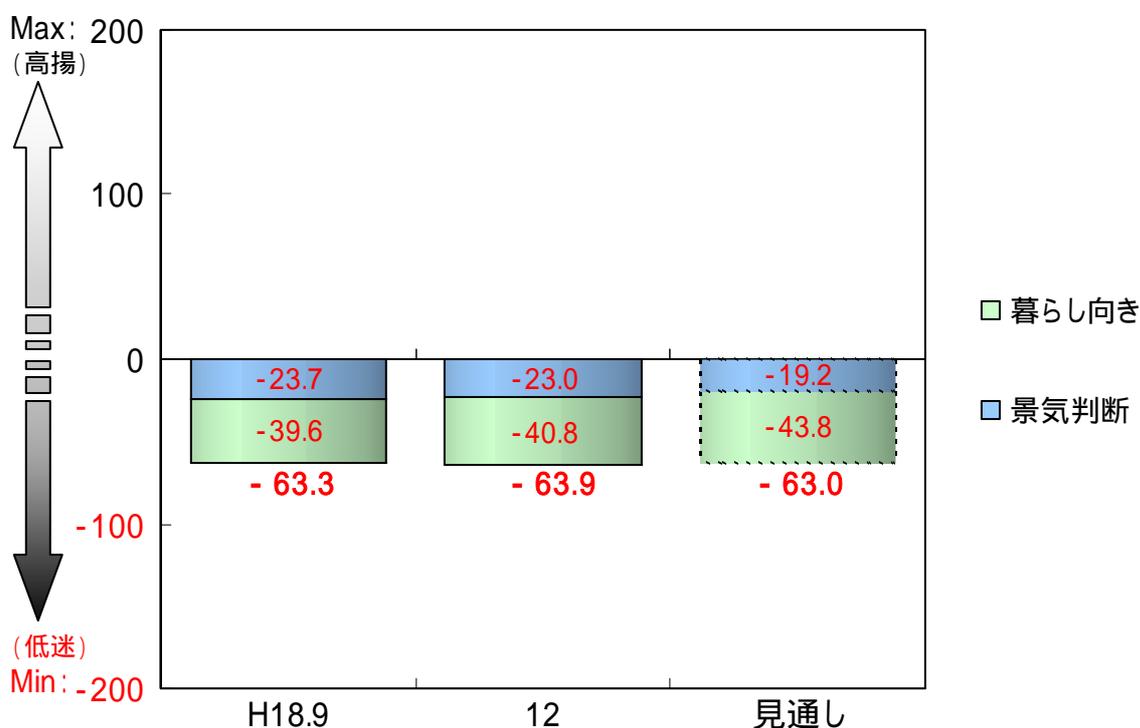
・ 今月の消費指数	1
・ 今月の家計簿	2
・ 調査結果	3
1 . 景気判断と見通し	3
県内景気	3
雇用環境	3
日用品価格（物価）	4
2 . 暮らし向き判断と見通し	5
世帯（勤労）収入	5
資産価値	5
お金の使い方	6
暮らし向き	6
3 . 日常の買い物に関する判断と見通し	7
嗜好品（お茶・コーヒー、お酒、たばこなど）	7
ファッション衣料・靴など	7
家電・AV製品、家具など	8
金融商品（株式、債券など）	8
娯楽・レジャー	9
習い事	9
交際費	10
4 . 大きな買い物に関する判断と見通し	11
自家用車	11
住宅の購入・リフォーム	11
5 . 最近1ヵ月の収支状況	12
収支の概況	12
家計のやりくり（収入超世帯）	12
家計のやりくり（支出超世帯）	12
・ 調査の概要	13

・今月の消費指数

消費指数は 63.9 ~ 消費マインドは依然として低迷 ~

消費指数の内訳は景気判断指数が 23.0、暮らし向き指数が 40.8 となっており、景気判断指数に比べて暮らし向き指数が 17.8 ポイントも低く、暮らし向きは良くなっていないと感じている世帯が多かった。また、前回調査時点と比べて、景気判断指数と暮らし向き指数との間のギャップも 1.9 ポイント拡大した。

なお、今後の見通しについては、消費指数が 0.9 ポイント改善し 63.0 となるものの、暮らし向き指数が悪化予想となっていることから、消費マインドも低調に推移すると予想される。



【指数の見方】

消費指数は 景気判断指数と 暮らし向き指数の合計からなり、値は 200 ~ -200 の範囲をとります。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば、消費マインドは低迷していると判断します（詳しくは 調査の概要 6 . 指数の作成方法をご覧ください）。

景気判断指数（指数レンジ 100 ~ -100）:

家計を取り巻く経済環境をどのように認識しているかを表した指数です。「県内景気」、「雇用環境」、「日用品価格（物価）」に関する設問の回答結果から作成されます。

暮らし向き指数（指数レンジ 100 ~ -100）:

“我が家の暮らし向き”をどのように認識しているかを表した指数です。「世帯収入」、「資産価値」、「お金の使い方」、「暮らし向き」に関する設問の回答結果から作成されます。

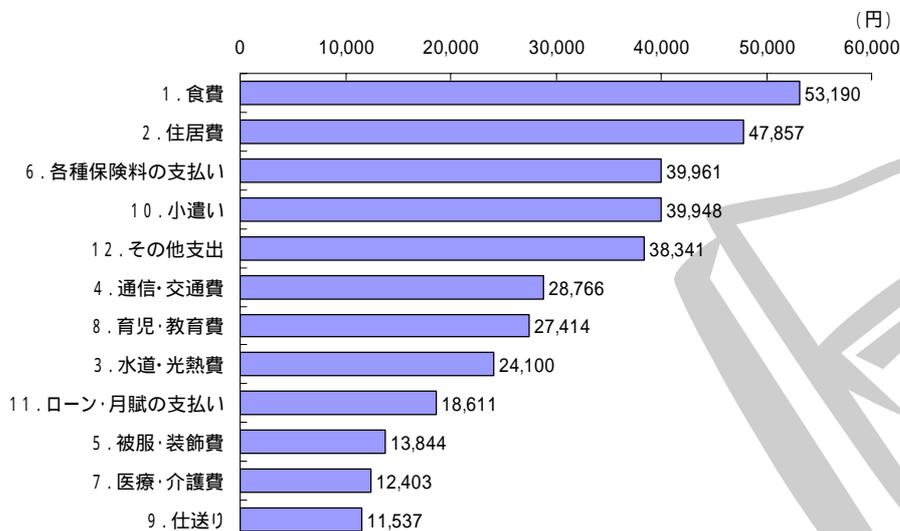
・今月の家計簿

最近1ヵ月におけるの全世帯の平均収入額（手取額）は460,082円であり、前回調査時点と比べて16,178円減少した。一方、平均支出額は355,972円であり、前回調査時点と比べて26,135円増えた。なお、平均消費性向は77.4%となっている。

(単位:円)

		9月	12月	前月差
収入	定期収入	266,332	264,881	-1,451
	臨時収入	52,389	37,868	-14,521
	1.世帯主の収入	318,721	302,749	-15,972
	他の人員の定期収入	118,829	116,552	-2,277
	他の人員の臨時収入	18,258	14,930	-3,328
	2.他の人員の収入	137,087	131,482	-5,605
3.その他収入	20,452	25,851	5,399	
・収入計		476,260	460,082	-16,178
支出	1.食費	55,472	53,190	-2,282
	2.住居費	46,395	47,857	1,462
	3.水道・光熱費	38,821	24,100	-14,721
	4.通信・交通費	38,440	28,766	-9,674
	5.被服・装飾費	29,978	13,844	-16,134
	6.各種保険料の支払い	24,895	39,961	15,066
	7.医療・介護費	24,611	12,403	-12,208
	8.育児・教育費	23,065	27,414	4,349
	9.仕送り	15,562	11,537	-4,025
	10.小遣い	12,245	39,948	27,703
	11.ローン・月賦の支払い	10,984	18,611	7,627
	12.その他支出	9,369	38,341	28,972
	・支出計		329,837	355,972
平均消費性向(支出計÷収入計×100)		69.3%	77.4%	8.1%

収入額はすべて手取額



< 平均的な世帯像 >

世帯主: 48.0歳

世帯人員: 3.9人

収入の担い手: 1.9人

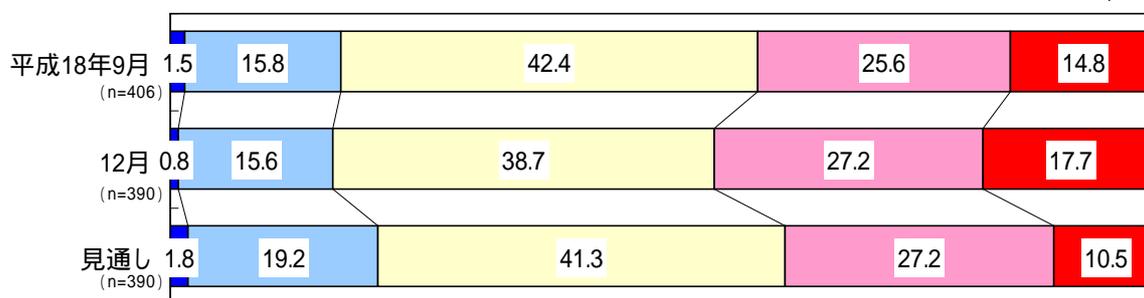
調査結果

1. 景気判断と見通し

県内景気

現状認識は「悪い」(17.7%)と「どちらかと言えば悪い」(27.2%)が44.9%を占めており、前回調査時点と比べて県内の景気に対して暗い認識を持っている世帯が増えた。ただ、今後の見通しについては「良くなる」(1.8%)と「どちらかと言えば良くなる」(19.2%)と考えている世帯の割合が増え、21.0%の世帯が良くなると予想している。

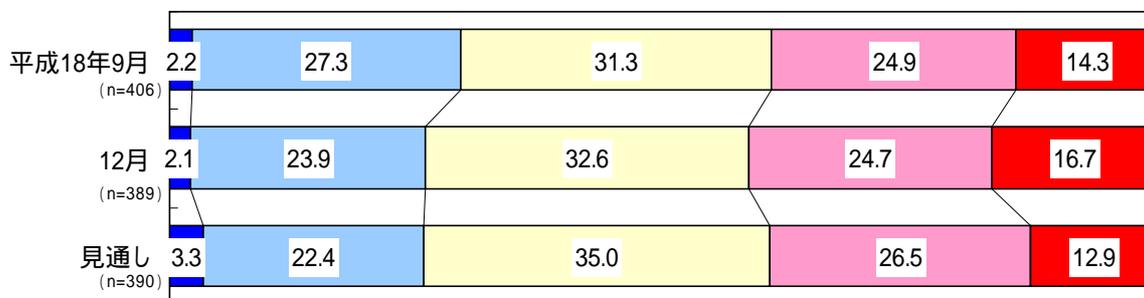
■ 良い(良くなる) □ どちらかと言えば良い(良くなる) □ どちらとも言えない □ どちらかと言えば悪い(悪くなる) ■ 悪い(悪くなる)
(%)



雇用環境

現状認識は「良い」(2.1%)と「どちらかと言えば良い」(23.9%)が26.0%を占めているものの、「悪い」(16.7%)と「どちらかと言えば悪い」(24.7%)がそれを上回っており、雇用へ不安感を抱いている世帯が多かった。また、今後の見通しについては、やや不安感が和らぐものの、依然として「悪くなる」と考えている世帯が多い。

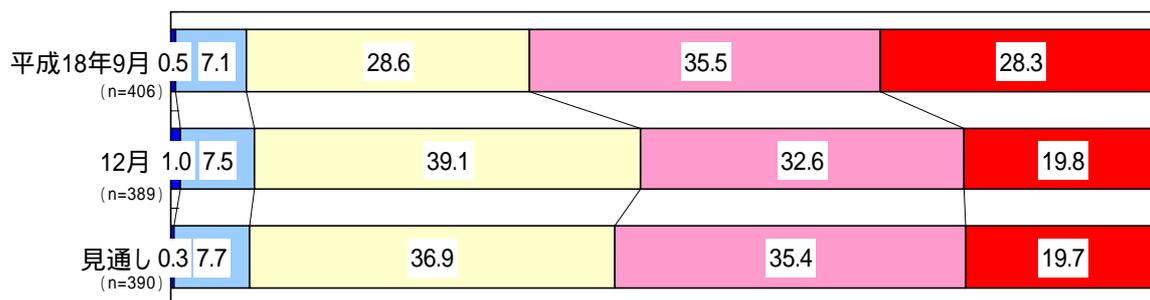
■ 良い(良くなる) □ どちらかと言えば良い(良くなる) □ どちらとも言えない □ どちらかと言えば悪い(悪くなる) ■ 悪い(悪くなる)
(%)



日用品価格（物価）

現状認識は「上がった」（19.8％）と「どちらかと言えば上がった」（32.6％）が 52.4％を占めており、日用品価格が上がっていると感じている世帯が過半数を占めた。ただ、前回調査時点と比べると、日用品価格が上がっていると感じている世帯の割合は 11.4％減っており、いくぶん落ち着きを取り戻しつつある。

■ 下がった(下がる) □ どちらかと言えば下がった(下がる) □ どちらとも言えない □ どちらかと言えば上がった(上がる) ■ 上がった(上がる)
(%)



2.暮らし向き判断と見通し

世帯（勤労）収入

現状認識は「減った」(33.9%)と「どちらかと言えば減った」(21.2%)が55.1%を占めており、収入が減ったと感じている世帯が過半数を占めた。また、今後の見通しについても悲観的な予想が趨勢を占めており、収入が「減る」と考えている世帯の割合が増えている。

■ 増えた(増える) □ どちらかと言えば増えた(増える) □ どちらとも言えない □ どちらかと言えば減った(減る) ■ 減った(減る)
(%)



資産価値

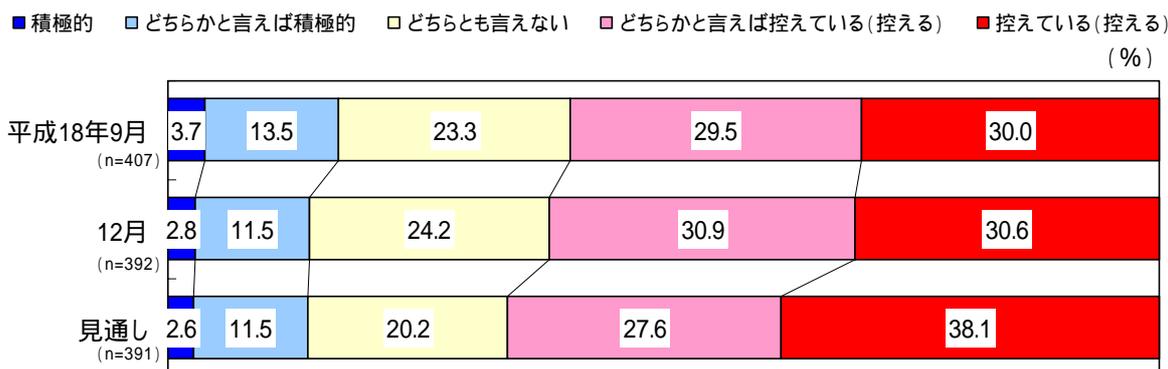
現状認識は「減った」(40.4%)と「どちらかと言えば減った」(20.7%)が61.1%を占めており、資産価値は減ったと感じている世帯が過半数を占めた。また、今後の見通しについても悲観的な予想が趨勢を占めており、資産価値が減ると考えている世帯の割合が増えている。

■ 増えた(増える) □ どちらかと言えば増えた(増える) □ どちらとも言えない □ どちらかと言えば減った(減る) ■ 減った(減る)
(%)



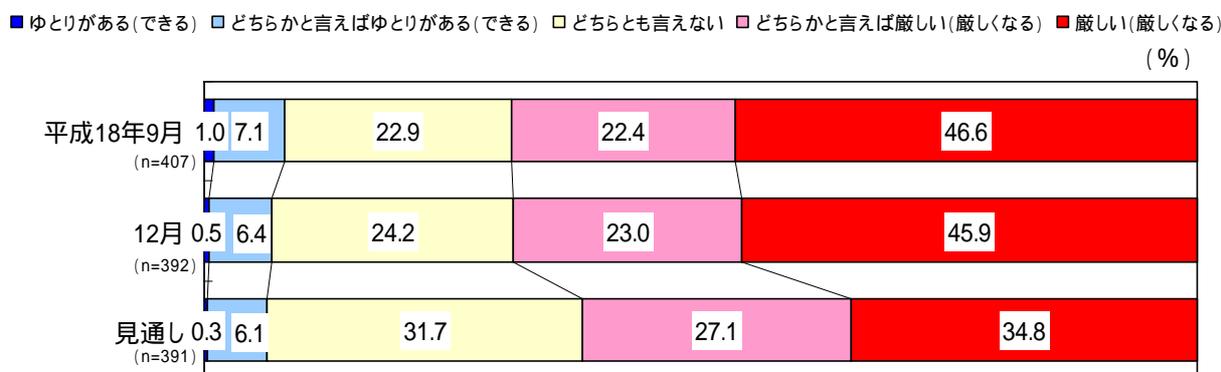
お金の使い方

現状認識は「控えている」(30.6%)と「どちらかと言えば控えている」(30.9%)が61.5%を占めており、お金を使うことを控えているという世帯が過半数を占めた。また、今後の見通しについても「控える」という世帯が多く、節約思考の世帯が多くなっている。



生活のゆとり

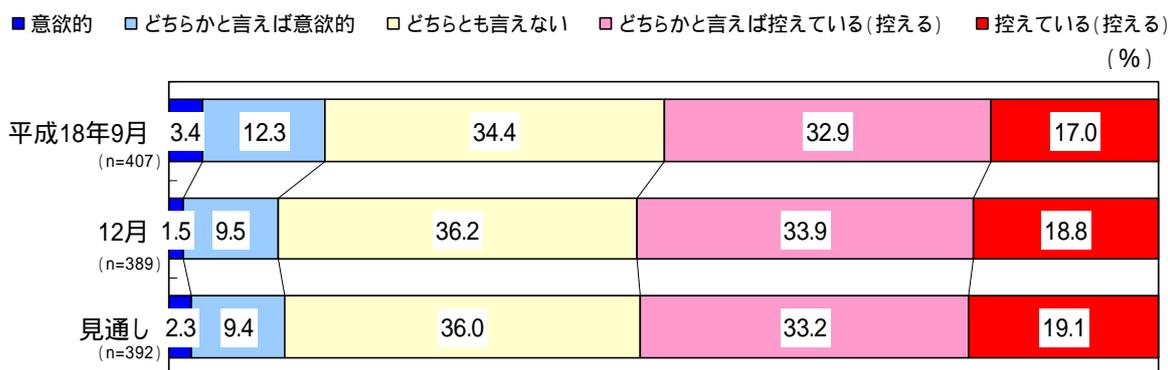
現状認識は「厳しい」(45.9%)と「どちらかと言えば厳しい」(23.0%)が68.9%を占めており、暮らし向きが厳しいと感じている世帯が過半数を占めている。ただ、今後の見通しについては、厳しいと見込んでいる世帯は多いものの、いくぶん明るさを取り戻す見込み。



3. 日常の買い物に関する判断と見通し

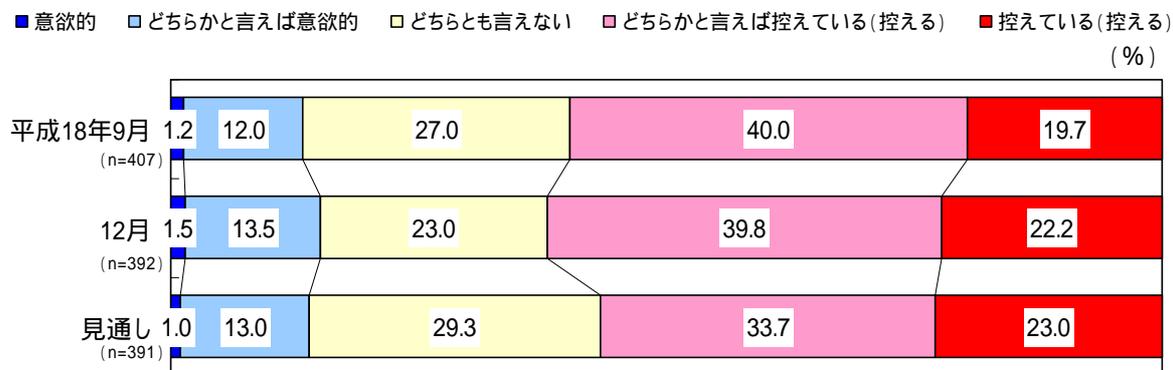
嗜好品（お茶・コーヒー、お酒、たばこなど）

現状認識は「控えている」(18.8%)と「どちらかと言えば控えている」(33.9%)が52.7%を占めており、前回調査時点よりも嗜好品の購入を控えているという世帯が多かった。また、今後の見通しについても「控える」という世帯が過半数を占めており、節制に努める世帯が多い。



ファッション衣料・靴など

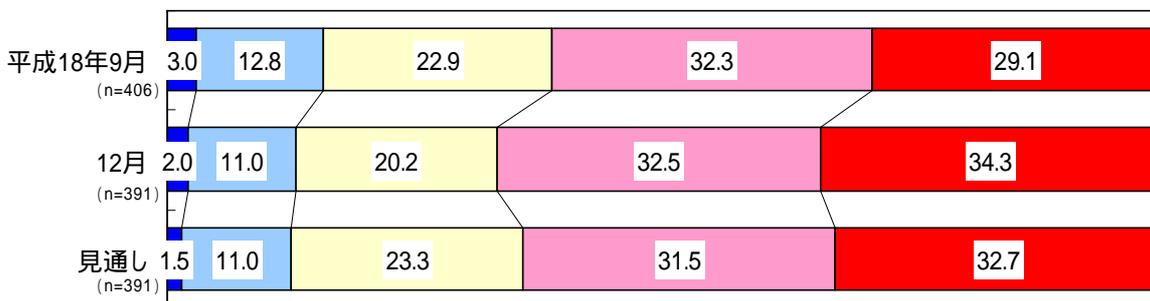
現状認識は「控えている」(22.2%)と「どちらかと言えば控えている」(39.8%)が62.0%を占めており、ファッション衣料・靴などの購入を控えている世帯が過半数を占めた。また、今後の見通しについても、購入を「控える」という世帯が過半数を占めており、買い控え傾向が続くと思われる。



家電・AV製品、家具など

現状認識は「控えている」(34.3%)と「どちらかと言えば控えている」(32.5%)が66.8%を占めており、家電・AV製品、家具などについては特に購入を控えているという世帯が多かった。また、今後の見通しについても購入を控えるという世帯が過半数を占めており、購入意欲の低さが目立った。

■ 意欲的 □ どちらかと言えば意欲的 □ どちらとも言えない □ どちらかと言えば控えている(控える) ■ 控えている(控える)
(%)



金融商品(株式、債券など)

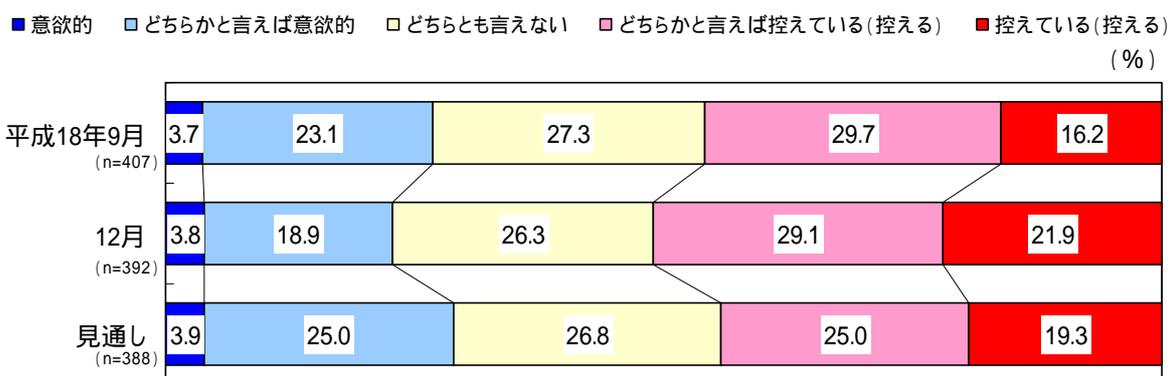
現状認識は「控えている」(50.8%)と「どちらかと言えば控えている」(14.7%)が65.5%を占めており、金融商品の購入を控えるという世帯が多かった。ただ、今後の見通しについては、購入を控えるという世帯は多いが、意欲的に購入したいとする世帯も増えている。

■ 意欲的 □ どちらかと言えば意欲的 □ どちらとも言えない □ どちらかと言えば控えている(控える) ■ 控えている(控える)
(%)



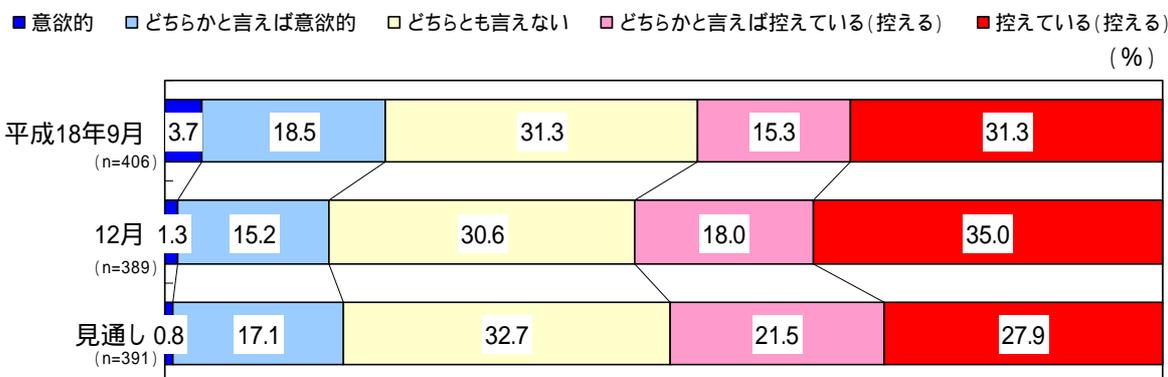
娯楽・レジャー

現状認識は「控えている」(21.9%)と「どちらかと言えば控えている」(29.1%)が51.0%を占めており、娯楽・レジャー関連支出を控えている世帯が多かった。ただ、今後の見通しについては、意欲的な支出を見込んでいる世帯が増えており、「意欲的」(3.9%)と「どちらかと言えば意欲的」(25.0%)を合わせ、28.9%の世帯が意欲的に支出したいと考えている。



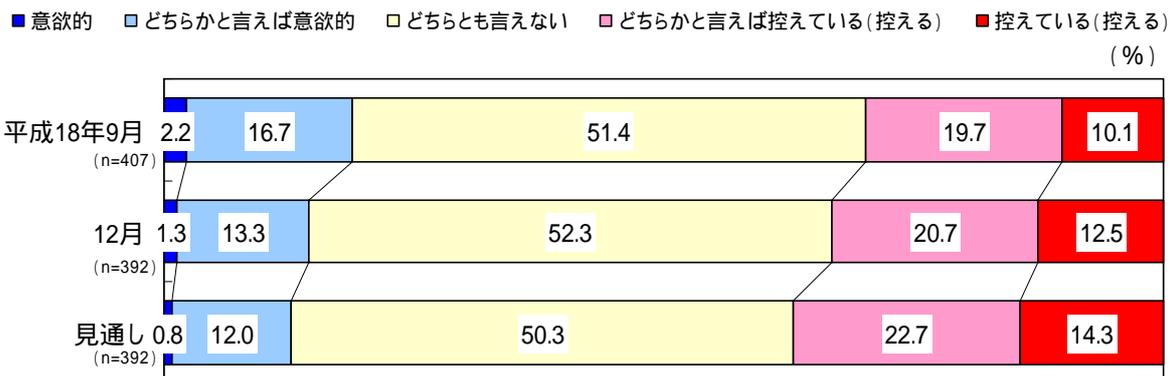
習い事

現状認識は「控えている」(35.0%)と「どちらかと言えば控えている」(18.0%)が53.0%を占めており、習い事への支出を控えている世帯が多かった。ただ、今後の見通しについては、意欲的に支出したいとする世帯もわずかに増えており、マインドの高まりも期待できる。



交際費

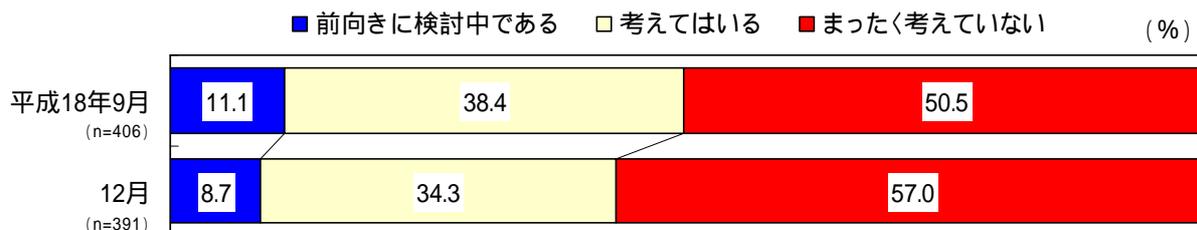
現状認識は「控えている」(12.5%)と「どちらかと言えば控えている」(20.7%)が33.2%を占めており、交際費を節約している世帯が多い。今後の見通しについても、交際費の支出を控えるという世帯が多く、支出を手控える傾向が続くと思われる。



4. 大きな買い物に関する判断と見通し

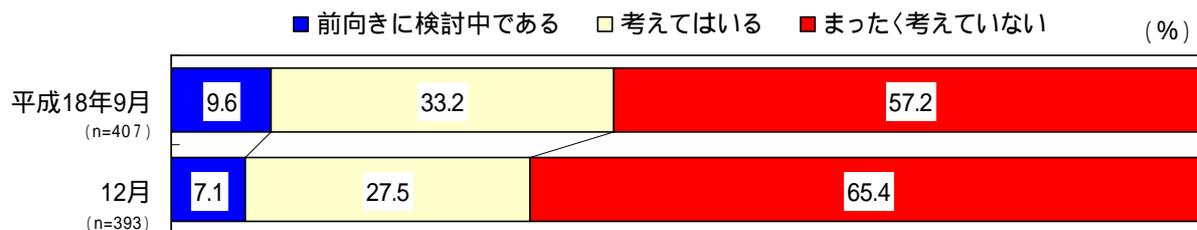
自家用車

自家用車の購入については「まったく考えていない」とする世帯が57.0%を占めており、前回調査時点と比べて6.5%増えるなど、購入意欲が低い世帯が目立った。



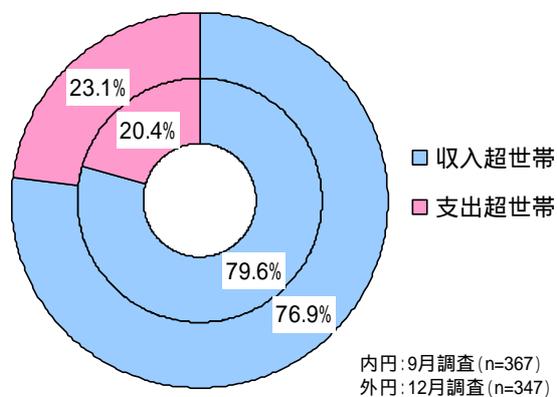
住宅の購入・リフォーム

住宅の購入・リフォームについては「まったく考えていない」とする世帯が65.4%を占めており、前回調査時点と比べて8.2%増えるなど、購入意欲が低い世帯が目立った。

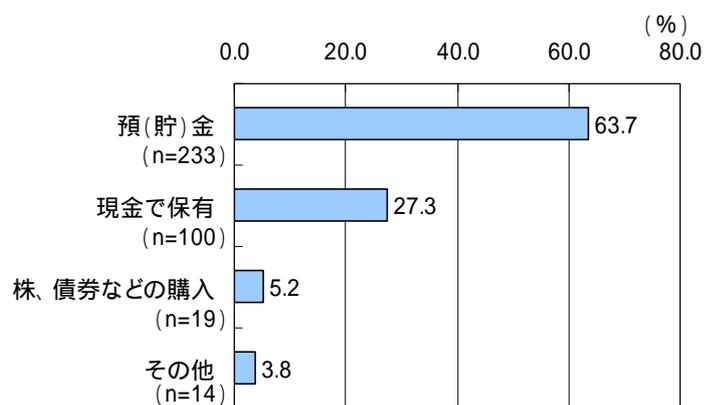


5. 最近1ヵ月の収支状況

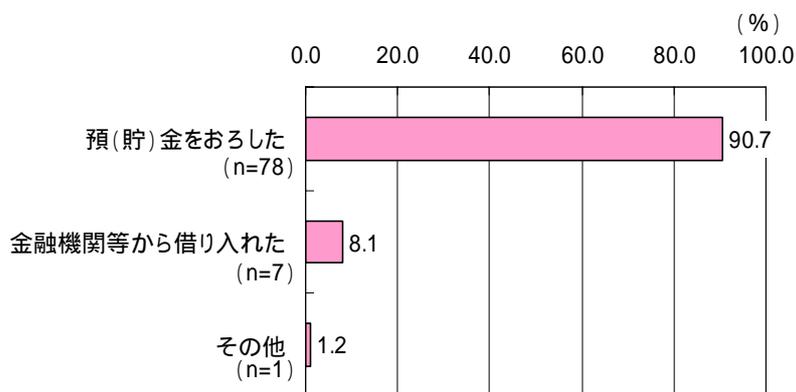
収支の概況



家計のやりくり (収入超世帯)



家計のやりくり (支出超世帯)



・調査の概要

1. 調査の目的

県民の暮らし向きや今後の見通しについて時系列的に捉えるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査の方法

- ・ 郵送調査専属モニターを利用したアンケート調査
- ・ モニター世帯数：417 世帯 今回の有効回答世帯数：393 世帯

3. 調査の対象者

- ・ 県内に在住する勤労者（サラリーマン）世帯（世帯人数2人以上の世帯）

4. 調査期間

- ・ 2006年12月1日～15日

5. 調査項目

(1) 判断項目

景気判断（五肢択一）:

「県内景気」、「雇用環境」、「日用品価格（物価）」に関する現状認識と見通し。

暮らし向き（五肢択一）:

「世帯収入」、「資産価値」、「お金の使い方」、「暮らし向き」に関する現状認識と見通し。

日常の買い物や支出動向（五肢択一）:

「嗜好品（お酒、たばこなど）」、「ファッション衣料・靴など」、「家電・AV製品、家具など」、「金融商品（株式、債券など）」、「娯楽・レジャー」、「習い事」、「交際費」の支出に関する現状認識と見通し。

大きな買い物や支出動向（三肢択一）:

「自家用車」、「住宅（リフォーム含む）」の支出に関する現状認識と見通し。

(2) 計数項目

最近1ヵ月の収支状況

6. 指数の作成方法

- (1) 「県内景気」、「雇用環境」、「日用品価格(物価)」、「世帯収入」、「資産価値」、「お金の使い方」、「暮らし向き」の7項目について、回答者の回答結果にポイントを与える。
- (2) ポイントの与え方は、例えば「県内景気」については、「良い」(1.0)、「どちらかと言えば良い」(0.5)、「どちらとも言えない」(0.0)、「どちらかと言えば悪い」(0.5)、「悪い」(1.0)とする。
- (3) 「県内景気」、「雇用環境」、「日用品価格(物価)」は家計を取り巻くマクロ経済環境に関する世帯の認識を把握するための設問であるため、回答者ごとにこれらのポイントを合計した後、「景気判断指数」としてまとめる。
- (4) 「世帯収入の増え方」、「資産価値の増え方」、「お金の使い方」、「暮らしのゆとり」は“我が家の暮らし向き”に関する世帯の認識を把握するための設問であるため、回答者ごとにこれらのポイントを合計した後、「暮らし向き指数」としてまとめる。
- (5) 「景気判断指数」と「暮らし向き指数」に対して質問項目数とサンプル数をウェイトとする係数を乗じ、両指数を標準化した上で足し合わせ、「消費指数」とする。

以上

<お問い合わせ先>

株式会社荘銀総合研究所

研究開発グループ 熊本/齋藤(信)

〒990-0043 山形県山形市本町1-4-21 荘銀山形ビル8F

TEL: 023-626-9017

FAX: 023-626-9038

E-mail: fsn@sfsi.co.jp

URL: <http://www.sfsi.co.jp/>